

令和3年度社会福祉法人椎原寿恵会事業計画

基本方針

社会福祉法人椎原寿恵会 佐賀事業部では昨年4月1日に住宅型有料老人ホームグランドハウスまごころを開所し、自立者及び要支援、要介護1・2の受け皿として切れ目のないサービスの構築ができました。鹿児島事業部においても、住宅型有料老人ホームクオーレかせだに加え、新たに住宅型有料老人ホームセレーノの開所に向けて準備を行っているところです。

少子高齢化による生産人口減少は深刻な問題であり、介護人材不足にも大きく影響しています。これまで以上に効率的・効果的な経営が求められるなかで、人材確保、業務の効率化は大変重要な課題と考えます。

椎原寿恵会は、社会の変化に柔軟に対応し、地域の皆様に信頼のおける福祉サービスを提供し、安定した健全経営を行うとともに、未だ終息の見えない新型コロナウイルスへの対策を今後も徹底し、安心安全にサービス提供を行ってまいります。

1. 人材確保と業務の効率化

- (1) 介護人材不足が継続しており、今後も続く事が予想される。定年を迎えたシニア世代に積極的にアプローチして求人を行い、様々な経験で培った能力を十分に発揮できる部署への配置を行う。
- (2) 外国人労働者の積極的な雇用を促進する。佐賀事業部では昨年に引き続き、留学生支援制度を活用し、学生の時から支援を行い、人材の確保に努める。鹿児島事業部では仲介者を介し、インドネシアからの人材採用を検討していく。
- (3) 令和3年度介護報酬制度改定において、データ集約による科学的介護の取り組みが色濃く見られた。ICTへの取り組みを更に充実させるとともに、佐賀事業部、鹿児島事業部のネットワークをより連携が取れる体制へと拡充する。

2. 新型コロナウイルスへの対策

- (1) 新型コロナウイルスへの予防と対策を継続し、施設や事業所内でのクラスター発生を防ぐ。例年行っている行事関係についても再検討を行い、三密をつくらないように配慮する。感染者が発生した際は協力医療機関と連携し、速やかに終息に向けて対策を講じる。
- (2) 現場職員の新型コロナウイルス対策に対する心労を見逃すことなく、必要があればメンタルヘルスカケアを実施し、精神的負担の軽減を行う。

3. 外部機関との連携強化

- (1) 地域に根付いた法人である為に、様々な機関（地公体・医療機関・区長・民生委員等）と連携し、開かれた社会福祉法人運営を行う。
- (2) 佐賀事業部においては、昨年新型コロナウイルスにより開催できなかった認知症カフェの実施に尽力し、合わせて地域コミュニティを立ち上げ、社会福祉法人として出来る限りの支援を行っていく。

1. 特別養護老人ホーム真心の園

基本方針

特別養護老人ホームは旭1階の1ユニット再開を最重要課題として取り組んだが、人材確保が思うように行かず、再開は出来なかった。令和3年度も最重要課題とし、再開に向けての取り組みを行いながら、まずはショートステイ9床の定床化も含めた入居定員129名満床を目指し、安定した事業運営を目指す。また昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染予防に取り組み、感染者を出さない、感染を持ち込まない事を徹底する。令和3年度は介護報酬改定年度である為、加算や体制についても柔軟に対応していく。

(1) 介護課

- ① 入居者にとって居心地の良い住まい、家族にとっては安心して任せる事が出来る場所、職員にとっては笑顔で働ける職場となるように、5S（整理・整頓・清潔・清掃・躰）を徹底し、職員個々が聴く力や物事に対し柔軟に対応できる力、課題に対する行動力を身に付け、入居者の「思いに寄り添った介護」を実現できるよう努める。
- ② 入居者一人ひとりに対し介護課、医務課、栄養課が連携し、多職種で関わりを持つ事で体調の変化を早期に発見し、健康管理の充実を図る。又、主治医との連携を密に図り、入院者の減少に努めると共に、昨年度より取り組んでいる介護職員の喀痰吸引について今年度も研修を継続し、介護職員が喀痰吸引できる体制づくりを構築する。
- ③ 令和元年度の留学生支援制度にて1名の留学生が本年4月に入職となる。令和2年度は2名、令和3年度は3名の学生を支援する予定であり、介護人材不足の現状を踏まえ、積極的な運用を実施する。研修場所の提供や生活面のサポートも実施し、外国人が安心して働ける職場づくりに努める。
- ④ 入居者確保の為、定期的な営業活動を行い居宅支援事業所、病院、老人保健施設担当者との連携を強化し、施設の空き情報や概要について説明を行っていく。遠方のエリアに関しては、福岡市内周辺、佐賀県内、久留米市などエリアを分けて、3ヶ月に1回は関係機関に営業へ出向く。協力医療機関であるまごころ医療館とは情報の共有と更なる連携の強化を図り、新規入居者・待機者の確保に努める。

(2) 医務課

- ① 昨年度に引き続き施設看取りの充実を図る為、勉強会や研修会の開催を行い、職員個々のスキルアップに努め、家族、関係医療機関との情報交換も密に行う。施設内においても介護・医務・栄養各課の連携を更に強化し、状態変化時は早めに主治医へ相談する。看取り同意書の取得と共に、看取り患者が家族と最後の時間を可能な限り持てるよう、細やかな状態観察や情報の提供を行う。
- ② 入院日数の短期間化と在園日数の延長を大きな目標とし、各棟を巡回しながら情報収集や状態確認、異常の早期発見・早期対応を徹底する。健康状態悪化後も継続入居を希望された際は医療機関との連携を密に行い、施設で出来る限りの治療を行っていく。
- ③ 新型コロナウイルスやインフルエンザなどの感染予防に努め、利用者や職員が感染しないよう感染対策や予防への声かけを率先して行っていく。

(3) 栄養管理課

- ① 四季折々の行事食や定期的におやつバイキングを取り入れることで、季節を感じてもらいながら、「食」に楽しみや喜びを感じてもらう。また、可能な限り嗜好に添った物を提供できるよう、定期的にアンケートを実施し、満足度の向上に努める。
- ② 「最後まで口から食べる」を最優先課題とし、多職種で連携を取りながら、入居者個々に応じた食事の提供を行う。巡回や検査データを元に、栄養状態を確認し、低栄養の予防、栄養の改善に努める。
- ③ 委託業者と連携を密にし、厨房内の衛生管理の徹底を行う。食中毒や感染症についても予防対策を徹底し、安心・安全な食事の提供に努める。定期的に委託業者との意見交換も継続し、業務内容の評価と作業の効率化を図る。

2. ショートステイ（短期入所生活介護）

令和2年度は入居率アップを目指し、定床化枠の活用を行ったが、新型コロナウイルスの影響もあり、うまく活用する事が出来なかった。今年度はロングショートの積極的な受け入れと居宅支援事業所との連携強化を行い、稼働率アップに努める。

昨年に引き続き、11床のショートステイ稼働率90%（1日9.9名）定床化9床を有効に活用することを目標とし、安定した運営と稼働率の向上に努める。

- ① ショートステイ11床と定床化枠9床の安定的な運営の為、居宅支援事業所や医療機関、連携室等に出向き、空き情報の提供や連携強化の為の営業活動を行う。
- ② 新型コロナウイルスの終息が見えない為、引き続き地域の感染状況を常に把握しながら、予防対策の徹底を行う。利用者家族に対しても、受け入れ時に他県への往来や接触状況を確認し、受け入れの可否を判断する。
- ③ コロナ禍においても、趣味活動やレクリエーション等を可能な範囲で継続し、利用者が楽しく過ごす事が出来るよう努める。次回も利用したいと思われるよう、今後も引き続き努力していく。
- ④ 定期的な戦略会議を今後も継続し、状況に応じた運用や課題解決に向けての協議を速やかに実施する。

3. 鳥栖市鳥栖西地区地域包括支援センター事業

鳥栖西地区地域包括支援センターは包括支援センター事業の委託を受け、介護・福祉行政の一翼を担う「公益的な機関」として、公正、中立性の高い事業運営に努めている。高齢者が可能な限り住み慣れた地域で自分らしい生活を続けることができるよう「地域包括ケアシステム」構築のための中核的な役割を果たしていくことが求められ、地域住民とともに地域のネットワークを深め、地域で支えるまちづくりの構築に向け活動を行っていく。

① 介護予防マネジメント業務

- ・コロナ禍の状況で、外出を控える高齢者が多く、心身認知面の機能低下をまねいている高齢者が増加傾向である。できる限り地域で自立した生活が送れるよう、自主サロンや介護予防事業等への参加を呼びかけ、早期に身体状況に応じた機関に繋げるように対応する。

- ・自身の健康増進や介護予防に対する関心・意識が浸透するよう、出前講座等で啓発を行うとともに検診の受診勧奨を行う。

② 総合相談事業

- ・高齢者の相談を総合的に受け止めるワンストップサービスの拠点としての機能充実を図り、適切なサービスや関係機関・制度へ繋ぎながら、継続的に支援を行っていく。
- ・地域の身近な相談窓口として、近隣住民、地域のネットワーク等を通じた様々な相談を受け、的確な状況把握を行い迅速に対応する。

③ 権利擁護

- ・高齢者虐待の事例を把握した場合は、速やかに当該高齢者の状況を把握し、関係機関と連携を図り、迅速に適切な対応できるよう努める。
- ・成年後見制度の普及、消費者被害防止のための情報収集を行い、広報誌などの掲載やチラシの配布等にて啓発活動を行う。

④ 包括的・継続的ケアマネジメント業務

- ・地域ケア会議を開催し、地域住民主体で自分たちの町について話し合い、新たな取り組みができるよう後方支援を行う。
- ・近年、水害を中心とした災害が相次いでいる。出前講座などで防災・減災に関する基礎知識の普及啓発を行うと共に、地域に対して自主防災組織の設立、積極的な活動に結びつくよう働きかけを行う。

⑤ 認知症地域支援・ケア向上事業

- ・認知症の方が、状況に応じて必要な医療や介護サービスを受ける事ができるよう認知症初期集中支援チームと連携し、早期診断、早期対応に向けた支援を行う。

⑥ 生活支援体制整備事業

- ・地域のサロンや老人クラブ等の集会に足を運び、地域の困り事や活動状況等について情報収集を行う事で、不足している地域資源の把握を行う。
地域住民と情報を共有した上で、住民主体の互助による資源の仕組みづくりに取り組む。
- ・行政、各地区の生活支援コーディネーターと協働し、協議体の立ち上げに向け、住民主体の意識が地域に浸透していくよう働きかけを行う。

4. 訪問看護ステーション事業

事業方針

地域高齢者の健康管理や、重度者の在宅生活を、自分らしく継続する喜びと、安心を提供できるように努めていきます。

- ① 要介護状態または要支援状態にあり、主治医が訪問看護の必要を認めた利用者に対し、適切な訪問看護、予防訪問看護サービスを提供します。
- ② 心身の状況や生活環境を踏まえて、日常生活動作の維持、回復を図るとともに、生活の質の確保を重視した在宅療養が継続できるように支援します。
- ③ 関係市町村や地域の保険・医療・福祉サービスと緊密な連携を図り、総合的なサービスの提供に努めます。

5. ケアハウス事業（花みず木・かせだ）

（1）ケアハウス花みず木

事業計画

新型コロナウイルス感染拡大に伴い入居者の行動制限が余儀なくされている為、入居者の生活全般における自己実現の為、より一層個別ニーズを把握し、自立支援・自己選択の実現及び、安心して安全な生活の提供に努めます。

開設から20年を経過し、施設・施設備品等、点検修理・入れ替えを行い、入居者の安全な生活保持ができる環境をつくり、年間を通し空室がないように努めます。

- ① 利用者のニーズを把握し、外出支援など個別対応に努める。
- ② 利用者の状態把握を行い、家族や医療機関、サービス事業者、各関係機関等との連携を図り、ケアハウスでの生活の継続支援に努める。
- ③ 新型コロナウイルス禍における地域貢献への取り組みを再検討し実施する。
- ④ 施設内外の研修参加や実施に取り組み、職員のスキルアップに努める。
- ⑤ 地域包括支援センター、近隣病院の地域医療連携室等へのアプローチを行い、常時待機者10名以上、年間入居率100%の実現に努める。

（2）ケアハウスかせだ

事業計画

ケアハウスとして入居者様の自主性と特性に配慮し、コロナ禍でできる徹底した感染対策を行い、いつでも心地よく、健康的に過ごせる住環境をご提案します。様々なイベントが中止に追い込まれる中、明るく心豊かに生活が送れるように思いやりと真心を込めた接遇を行い、入居者様のストレス解消のための施策を職員全員で企画立案し実践します。

超高齢化社会に加速度的に突入する社会、コロナ禍における社会情勢の中、入居者様のニーズの変化、容態変化を読み取り、関係機関と連携して情報の共有を図り、各自にあわせたサービス、ケアの提案、提供を行います。

上記のことを踏まえてケアハウスかせだは下記4項目を実施推進いたします。

- ① コロナ禍における入居者様の安全を第一に徹底した感染症対策を行いながら入居者様の面会、行動制限等による精神不安に心のケアと心を込めたサービス提供を行い明るい日常生活が継続されるようにサポートします。
- ② 地域共生社会の実現のため、社会福祉資源としての役割を担い、他の関係機関との連携、情報の共有を図り、地域に開かれ信頼を集められる運営を行います。
- ③ 設立して20年を経過し施設及び設備の老朽化に伴う短期、中長期の修繕計画を立てランニングコストの低減に努めます。
- ④ 社会情勢や経営環境の変化、施設の運営の健全性を維持します。

6. 障害者支援施設かせだフレンドホーム

【基本方針】

施設理念をもとに利用者様一人ひとりの意思決定を尊重し、職員一丸となって安全で安心な生活を提供します。

(1) 生活支援員課

①利用者本位の支援を目指します

- ・利用者様の自己選択、自己決定を尊重し新しい行事や生活活動を取り入れ、喜び楽しみを得られるサービスを提供します

②職員一人ひとりの知識と意識の向上を目指します。

- ・職員一人ひとりが、仲間を思いやり、協力し合える体制づくりに努めます。
- ・外部研修の機会を設け、内部研修を充実させ、質の高いサービスの提供ができるようにOJTを通じた人材育成に努めます。

(2) 医務課

① 利用者様の障害特性に応じた健康管理を行い、本人様および家族様のご意向に沿った誠意ある看護を提供します。

② 利用者様が安心して生活が出来るよう新型コロナウイルス等の感染症予防対策の強化を図り、施設内での感染症発症を防ぎます。

(3) 栄養管理課

① 食事摂取基準を基に利用者様に喜ばれる献立を作成していきます。

- ・利用者様に美味しく、満足頂ける食事が提供される様、給食に関する意見や思いを献立等に反映させて立案し、工夫と改善の研鑽を行っていきます。

② 栄養ケアを他職種協働で実施していきます。

- ・利用者様が生活習慣病・疾病の重症化予防に努められる様配慮し、安全安心で穏やかな生活が送れるように支援します。

7. 相談支援事業所 彩

<特定相談支援事業>

障害福祉サービスを利用される利用者や家族の意向に沿った就労や生活の場を提供できるよう信頼関係の構築や地域、各関係機関との連携を図り、安心して地域生活を送れるよう支援を行います。

<障害児相談支援事業>

療育をおこなう事業所や通われている保育園・幼稚園、医療機関等と連携を図りながら利用者や家族を取り巻く環境を総合的に把握し、健やかに成長できる環境を提供できるよう支援を行います。

8. グループホーム事業 (和が家・みどりヶ丘・金峰やすらぎ館・椎原館・有馬館)

(1) グループホーム和が家

事業方針 (総括)

長期化する新型コロナウイルス感染予防対策を継続し、入居者の安全を確保しつつ、ストレスや不安の緩和に努め、健康維持が出来るようケアを行う。又、加齢により体力低下・身

体機能の低下が心配されるが、主治医・訪問看護ステーションとの連携を図る事で健康管理や異常時の早期対応を行う。又、様々な病気や障害を持ちながらも入居者個々に合った、日常生活が送れるようなケアを提供する。新型コロナウイルス感染の状況を確認しながら、ご家族の面会や地域との関わりにより、グループホームへの理解を深めて頂き入居者の喜びや生きがい作りに繋げて行く。

具体的な活動（事項別）

① 介護の質向上・介護環境の整備

- ・職員の研修（外部・内部）（リモート）への参加により専門的知識の取得と技能の向上を図る。又、専門書を読み、自己研鑽に努める。
- ・定期的に会議やミーティングを行い、職員間の情報共有と統一したケアを行うと共に働きやすい環境作りに努める。
- ・年間行事を計画し個別ケア（リハビリ・レクリエーション）も含め、入居者の余暇活動の充実・入居者の満足度向上を図る。
- ・月1回、入居者と職員で茶話会（意見交換）を行い、サービスの質の向上に努める。
- ・ケアプランについては、必要に応じて専門職（医師・看護師・PT等）の助言を受け、プランに反映させ、日々のケアを行う。

② ご家族や地域との関わりを深める

- ・毎月、入居者の心身状態の報告書と行事等の写真の郵送を行い、入居者の現状をご家族とグループホームが相互に理解する。
- ・ご家族が遠方で面会の制限・中止時はリモート面会の実施を行う。
- ・年2回「和が家だより」を発行し、ご家族に配布する事でグループホームでの生活の様子を伝える。
- ・年2回（9月・3月）防火訓練を計画し、年1回は、消防署立ち合い・夜勤専従者が参加出来る訓練を実施する。年1回は運営推進会議開催時に行う。

③ 入居者が快適に安心して生活できる環境の整備

- ・設備維持のため定期的なメンテナンスや不具合の改善を行う。
- ・入居者居室や区間の担当者を決めて美化点検と居住環境の整備を行う。
- ・車椅子や介護ベット、入浴用品の点検や清掃を定期的に行い、事故防止に努める。

④ 新型コロナウイルス感染予防

- ・検温・マスクの着用・手洗い・うがい・消毒・換気の徹底を行うと共に、専用倉庫で必要物品を確保しておく。
- ・面会や業者の受け入れは新型コロナウイルス感染状況を確認しながら行う。

⑤ 他事業所との連携・協力体制の強化と待機利用者確保

- ・待機者確保の為、地域の医療連携室や居宅介護支援事業所を訪問し、パンフレットを渡し、関係の強化と空き状況の情報共有・情報交換を行う。
- ・待機者への定期的な連絡による現状把握を行う。
- ・入居者の入院期間短縮の為、医療機関との連絡・相談・異常の早期発見と早期受診の対応を行う。

(2) グループホームみどりヶ丘

事業方針（総括）

コロナウイルス感染予防に努め、迅速な対応を行う事で、グループホームみどりヶ丘のホーム理念である、「ひとりひとりのマイホーム」を基に、職員一人ひとりが自分の役割を果たし、協力し合い、入居者及びご家族の満足度を高めていくよう努める。

また、地域包括ケアの一員としての役割を担っていることを周知し、時勢に応じながら、地域住民の方との交流・連携を深めていく。

具体的な活動（事項別）

① 入居者、ご家族の満足度を高める。

- ・入居者個々の望む暮らしの把握と実現、自立支援に取り組む。
- ・季節の応じた行事を企画し入居者、職員一緒に楽しむ。
- ・入居者の心身状態の変化、支援内容を定期または随時で報告し、入居者の現状を家族とグループホームが相互に理解する。
- ・「みどりヶ丘だより」を発行し、ホームでの生活や行事を伝える。
- ・外部研修への参加と内部研修の充実に努め、職員個々のレベルアップを目指す。
- ・職員一人ひとりが自律的に自分の目標を設定し、やりがいのある職場環境作りに努める。
- ・職員一人ひとりが入居者、ご家族、同僚など皆から信頼される行動をとる。
- ・資格取得を目指す職員への受講支援を行う。
- ・設備維持のための定期的なメンテナンス、不具合部分の修理を行う。
- ・生活空間、物品の整備、整理整頓、清掃。

② 地域との関りを深める

- ・コロナ禍の中、状況を見ながら、地域住民の方と一緒に取り組んでいる介護予防の「とすっこ体操」や勉強会の開催。また、地域の清掃活動への参加を通して連携を深める。ボランティアの受け入れ・地域行事への参加。
- ・ホームの役割として公民館のような役割、介護で困った時の相談所のような役割、地域の方の介護予防支援の役割を目指す。
- ・運営推進会議の内容の充実。状況に応じた対応。
- ・非常時や災害時の訓練、連絡、協力体制の整備。

③ 安定した事業運営のため稼働率98%を目標とする。

- ・入居者の体調管理、異常の早期発見、早期対応に努める。
- ・入退居による空床期間の短縮に努める。
- ・待機者確保の為、地域連携室や居宅事業所へ訪問し、関係の強化と空き状況の情報共有、情報交換を行う。
- ・待機者への定期的な連絡や現状確認による把握を行う。
- ・介護報酬改定年度でもある為、加算や体制に柔軟に対応していく。

(3) グループホーム金峰やすらぎ館

① 他事業所との交流を図り、参考にすべき事柄を自事業所へ持ち帰り活動の幅を広げ入居

者様の趣味、特技をより生かした、活動、処遇ができるように努める。

- ② コロナ禍の現状で面会等制限がある中、手紙のやり取り、電話、インターネット等の活用を入居者様・家族様ともに促し双方の繋がりが途切れないよう支援する。
- ③ 職員の確保に努め、定着を図り、職員にとって働きやすい環境づくりを継続して行い、その中で人材育成に力を入れケアの質の向上等、事業所全体の底上げを行う。
- ④ 主治医や訪問看護師との連携をこまめにとり利用者様の状態把握をやすらぎ館、病院の両方で行い安心した生活が送れるように努める。

(4) グループホーム椎原館

- ① 利用者様一人ひとりに寄り添いながら、その方の思いを実現できるように努める。
- ② 運営推進会議等を活用して、地域の方に事業所への理解を深めていただく。
- ③ ICTの活用で業務の効率化を図り、ケアをより充実させる。

(5) グループホーム有馬館

- ① 利用者様の望む暮らしを目指し、サービスの質の維持・向上を図る。
- ② 安心安全な環境を提供し、利用者様・家族様の満足度を高めていけるように努める。
- ③ 認知症ケアの基本を全職員が理解し、スキルアップを目指す。

9. 居宅介護支援事業（鳥栖市中央在宅介護支援センター）

(1) 鳥栖市中央在宅介護支援センター

- ① 令和3年度制度改正に伴う感染症対策強化や業務継続取組強化に向けて、指針の整備、事業継続計画等の基盤づくりを行う。
- ② 包括支援センターや医療機関内連携室等との連携を図り、新規支援依頼を積極的に受け入れ、一定の支援者数を確保する。
- ③ 医療機関との連携を強化し、医療・介護の切れ目ないサービスの提供とケアマネジメントの質の向上に努める。
- ④ 事業所内での週1回のミーティングで情報交換、課題の共有、相談がスムーズにでき、又勉強会やリモートを含む外部研修会等に積極的に参加する事で、自立に向けた支援や多種多様な事例に対応ができる事業所づくりに努める。
- ⑤ 他法人の居宅支援事業所と共同での事例検討会や地域包括支援センターが実施する事例検討会等に積極的に参加すると共に、実習生を受け入れ実務に向けた指導助言を行う事で特定事業所としての役割を果たす。
- ⑥ 各種会議、カンファレンスやその他業務におけるICTの活用状況等、周囲の動向を把握し、社会環境の変化に対応できるよう準備を行う。

10. 通所介護事業（真心の園・鳥栖市中央・遊逢・金峰やすらぎ館・有馬）

(1) 真心の園デイサービスセンター

- ① 居宅支援事業所へサービス状況やリハビリの取り組み等を情報提供する事で信頼を得、選ばれる事業所を目指す。稼働率83%を目指す。

- ② 個別機能訓練では、日常生活動作や社会参加、自宅での課題を確認し、個々の心身の状況に応じたプログラムを作成し、ADLの維持・改善に努め、自立支援と重度化防止に向けた取り組みを行う。
- ③ 季節感を感じられる行事、利用者の意向及び趣味を考慮し個々のレベルに応じた個別活動（選択制）や集団活動を実施し、心身の活性化と認知症進行予防に繋げる。
- ④ 接遇、技術、知識の向上の為、外部（リモート）研修への参加と定期的な内部研修を実施し、自覚と責任を持ち質の高いサービスが提供できるよう努める。
- ⑤ 制度改正に伴う感染症対策の強化や感染症や災害発生時の業務継続に向けた計画の策定や研修等基盤づくりを行う。又地域住民やボランティア団体等との連携や協力を行い、地域交流に努める。

（2）鳥栖市中央デイサービスセンター

- ① 居宅支援事業所へサービス状況やリハビリの取り組み等を情報提供する事で信頼を得、選ばれる事業所を目指す。稼働率83%を目指す。
- ② 個別機能訓練では、日常生活動作や社会参加、自宅での課題を確認し、個々の心身の状況に応じたプログラムを作成し、ADLの維持・改善に努め、自立支援と重度化防止に向けた取り組みを行う。
- ③ 季節感を感じられる行事、利用者の意向及び趣味を考慮し個々のレベルに応じた個別活動（選択制）や集団活動を実施し、心身の活性化と認知症進行予防に繋げる。
- ④ 接遇、技術、知識の向上の為、外部（リモート）研修への参加と定期的な内部研修を実施し、自覚と責任を持ち質の高いサービスが提供できるよう努める。
- ⑤ 制度改正に伴う感染症対策の強化や感染症や災害発生時の業務継続に向けた計画の策定や研修等基盤づくりを行う。又地域住民やボランティア団体等との連携や協力を行い、地域交流に努める。

（3）デイサービス遊逢

- ① できる限りの感染症予防に努めつつ、常に利用者の視点で考えられた日中・行事活動に取り組み、新しいことも取り入れ、利用者の刺激となり、役割や遣り甲斐を持っていただくことで、さらなる意欲向上に繋がります。
- ② 認知症ケア専門職としての自覚を持ち、家族様の思いや困りごとを知る・不安を汲み取る・変化に気づく・的確なアドバイスができる・一緒に解決する、そうする事で、家族様の負担軽減へ繋げ、利用者の1日でも長い在宅生活をサポートします。

（4）デイサービス金峰やすらぎ館

- ① 利用者の能力や経験を生かし、得意とする活動や好きな事を取り入れ症状（認知症）に合った、その人らしい輝ける場としてのサービス提供に努める。
- ② 職員の働きやすい職場の環境整備に努め、更なる離職率の低減化と人材育成を重視し、まとまりのある職場作りを図る。
- ③ 地域や社会との繋がりを大切に、理念（法人、職場）に添った役割を果たしていくと

共に医療、介護の連携を構築し、「質の向上」に努める。

(5) デイサービス有馬

デイサービス有馬は、要支援・要介護状態にあるご利用者様の個別の心身状態に合わせて機能維持、向上のために魅力あるデイサービスの運営に努めます。

デイサービスの目的である心身の機能維持・向上、孤立感の解消、清潔保持や日々の楽しみを見つけ、活力ある生活が送れるようにサポートし、ご家族様の負担の軽減を図ります。

また、ご利用者様の心身の状態変化を適切に把握し、医療、居宅介護支援事業所と連携して情報の共有を図り、現在の状態に応じた通所介護計画に反映できるように進言します。

- ① デイサービス有馬はご利用者様の心身の状態を踏まえた介護計画書に沿って 個別の機能の維持、向上のために職員一同取り組みます。
- ② ご利用者様がデイサービスでの活動に積極的に参加いただけるように親しみのある接遇に心がけ、施設内通貨の利用や毎回楽しみを感じるレクリエーションを企画します。
- ③ デイサービスをご利用いただけることでご家族様の心身の介護負担を和らげ、ご利用者様の不安や孤独感を解消する一役を担います。
- ④ ご利用者様の心身の変化について職員全員が情報共有し、個々人に応じた介護の方法を協議・実践するとともに、医療、居宅介護支援事業所、ご家族様他関係機関と密接に連携してサポート致します。

11. 訪問入浴介護事業（真心の園）

- ① 利用者の状況を把握し、家族の意向や多職種との連携を行い、安全で快適な入浴の提供を行う。
- ② 車両及び各種器具、物品の定期点検とメンテナンスを行い、安全性を重視し業務を行う。

12. 訪問介護事業（真心の園・鳥栖市中央・ほほえみ）

(1) 真心の園ホームヘルプ

- ① 報告・連絡・相談の徹底で情報共有をし、ミーティングでの意見交換、事例検討を行う事で個々のレベルアップと事業所全体の質の向上に努め、重度化防止に資するサービスの提供を行う。
- ② 住み慣れた地域での暮らしを支え、自立した生活とより良いサービスに繋ぐ為、他職種や家族と情報の共有化を図り連携に努め信頼関係を深める。
- ③ 利用者のニーズに応え生活にあった個別援助計画書を作成し、支援内容を十分に理解し統一した支援を行う。
- ④ 制度改正に伴う感染症対策の強化や感染症や災害発生時の業務継続に向けた取組強化等、指針の整備や計画の策定等、基盤づくりと研修の実施を行う。

(2) 鳥栖市中央ホームヘルプステーション

- ① 報告・連絡・相談の徹底で情報共有をし、ミーティングでの意見交換、事例検討を行う事で個々のレベルアップと事業所全体の質の向上に努め、重度化防止に資するサービス

の提供を行う。

- ② 住み慣れた地域での暮らしを支え、自立した生活とより良いサービスに繋ぐ為、他職種や家族と情報の共有化を図り連携に努め信頼関係を深める。
- ③ 利用者のニーズに応え生活にあった個別援助計画書を作成し、支援内容を十分に理解し統一した支援を行う。
- ④ 制度改正に伴う感染症対策の強化や感染症や災害発生時の業務継続に向けた取組強化等、指針の整備や計画の策定等、基盤づくりと研修の実施を行う。

(3) ほほえみホームヘルパーステーション

- ① 利用者様のニーズに応じたサービスを提供すると同時に心のケアに努める。
- ② 利用者様の尊厳を守り、残存機能の維持に努める。
- ③ 緊急時の連絡が迅速に行えるよう、各関係者との報告・連絡・相談を欠かさず密な連携を図る。
- ④ 各事業所との連携を密に取り、新規利用者の獲得に繋げ、安定した運営と収入を図る。
- ⑤ 良質なサービス提供の為に研修等を通して、精進できるよう努める。

13. 保育事業

日本の将来を担う子どもたちのために、生育環境の向上と家庭や地域における子育て支援の施策を推進し、福祉基盤の強化と更なる保育所の機能及び質の向上に努める。また、子育て支援センターの地域に果たす役割もその重要性が高まっており、日常の保育の他に地域の子育て拠点としての役割がますます重要になってきていることを念頭に置き、その要望に応えるべく「選ばれた保育園」として保育士等の人材確保に努め保育体制の強化を図る。

- ① 専門職としての資質向上を図るため園内研修、園外研修に積極的に参加し職員会議等で保育に関する情報を共有する。
- ② 保護者にとって条件の良い保育所であるだけでなく、保育士会倫理綱領に掲げられている「子どもの育ちを支えます」、「保護者の子育てを支えます」、「子どもと子育てにやさしい社会を作ります」の3点を軸に保育にあたる。また、長時間保育の弊害を減らしていけるよう保護者の協力を求めていくとともに時間外保育においては家庭的でくつろげる雰囲気を作る。
- ③ みどりヶ丘保育園ならではの高齢者との交流を通じて温かさややさしさを体験させる。あわせて地域（緑ヶ丘団地）の方々との交流にも深める。
- ④ 気になる子(発達障害)については専門機関や保護者との連携を図り、子ども達の社会的自立の基礎作りに努める。日常保育のなかで周囲とのコミュニケーションを取りにくい子どもに対し職員間で情報を共有し安心して過ごせるよう子どもに寄り添った保育を心がける。
- ⑤ 食育については、みどりヶ丘農園での野菜の栽培活動を通じて自然の営みを発見し、自ら収穫したものを食することで食に対する関心を深め、食物に対する感謝の念を育み正しい食習慣の習得に努める。また、保育士と栄養士の連携を図りながら収穫物でクッキング等食育活動を行う。

- ⑥ 保育指針に基づき養護と教育を柱とした保育課程の実践と充実に努める。

(子育て支援センター)

- ① 地域の在宅の親子に対する園庭開放（みどりの広場）、麓まちづくり推進センター、北まちづくり推進センターへの出前保育、育児相談を通じて子育て支援を行い、母親の育児不安からくる児童虐待などの早期発見に努め、支援事業の更なる充実に努める。
- ② 民生委員、母子推進委員、子育て総合コーディネーター等との連携を図り地域のボランティアの方々の協力を得ながら支援活動を行う。

(延長保育)

- ① 保護者の多様化する勤務体制に応じたニーズに対応するため長時間保育の子どもたちの心のケアに努める。

14. 企業主導型保育事業（まごころ保育園）

基本方針

職員が、結婚、妊娠、出産、子育てというライフステージにかかわらず働き続けるよう支援を行い、子育てに優しい企業として法人のイメージ向上に繋げたい。また、地域の子どもを受け入れ、子どもの成長に喜びや生きがいとともに感じられる温かみや安心感のあるまちづくりに貢献していく。

開園当初から委託している㈱テノ.サポートとの連携を強めて、園児を柔軟に受け入れられる保育体制づくりを行いたい。

① 保育内容の充実・質の向上

- ・子どもの生命の保持及び情緒の安定を図るために援助や関わりを持つ。生活全体のバランスを高め、社会的行動の始まりを大切に見守る。子どもの生活や遊びを通して、子どもが健やかに成長し、その活動がより豊かに展開出来るようにする。
- ・研修に積極的に参加し、保育の専門性を高めると共に学んだことを現場で実践し、共通理解を図り協調性を高める。

② 保護者への支援

- ・保護者との信頼関係を築きながら、相談においては保護者の気持ちに寄り添って誠実に対応、サポートしていく。
- ・保育園での子どもの成長を保護者に共有する。

③ 環境の整備

- ・老人ホーム真心の園との交流を通して、思いやりや、優しい気持ちを育む。
- ・子どもの安全を第一に考え、健康、情緒の安定した生活が出来る環境を用意する。

15. 給食サービス事業

コロナウイルスが蔓延するなか、利用者に安全・安心な食事の提供に努める為、職員一人ひとりが食中毒・感染予防に心がけると共に、行政・包括支援センター等の連携を密にし、より多くの地域高齢者に喜ばれる食事の提供と健康の維持増進に努めます。

- ① 感染症・食中毒を防ぐため、手洗い・アルコールの徹底や、車両や器具・冷蔵庫等の清掃を常に行い、清潔で安全な職場づくりに努めます。

- ② 各部門での作業をマニュアル化することで、どんな人も作業に取り組みやすくする等、働きやすい職場づくりを調理員・配達員と共に行い、作業を考えてもらう事で同時にスキルアップを図ります。
- ③ 行事や季節感、旬を料理に組み込み、利用者に喜ばれる食事を提供し、利用者ニーズの情報を収集し、取り入れることで、満足の向上につなげます。
- ④ 職員一人ひとりが運転・業務チェックシートを元に自己を振り返り、運転前の整備・点検を行って安全運転に努めます。
- ⑤ 月あたり50食増加を目標とし、地域包括支援センターと定期的に連絡を取り、地域高齢者の現状を把握し、食事の情報提供や提案をしていきます。

16. 住宅型有料老人ホーム事業(クオーレかせだ・グランドハウスまごころ・セレーノ)

(1) クオーレかせだ

開設以来 グループホーム入居等の理由で退居者もいるが、協力医療機関からの入居者が多く、開設目的である医療・福祉の連携については十分その目的を達成できている状況である。医療機関からの退院者や行き場のない高齢者の受け皿として今後もその目的を充分生かして行きたい。ケアハウスかせだと令和3年4月開設予定のセレーノを含めた、3施設連携で利用者のレベルに合わせた施設選択の情報提供を図りたい。

- ① 利用者様の希望と選択に資するデイサービス有馬を含めた法人内サービスの情報提供を行い、収支バランスの改善に努めます。
- ② 利用者様の生活スタイルに合わせた施設サービスの提供に努めます。
- ③ 利用者様との信頼関係に基づいた施設生活の確立に努めます。
- ④ 新型コロナウイルスを始めとする感染症予防に努めます。
- ⑤ 多様な利用者様の心身のレベルに応じた介護のため研修機会の確保に努めます。

(2) グランドハウスまごころ

開設後2年目となる今年度は、「法人内サービス提供体制における位置付け強化」「施設運営の安定化と継続化できる体制整備」「入居者・家族の満足度向上」以上3点を重点目標とする。

施設理念である「入居者同士のふれあいを大切にし、お互いに助け合いながら、その人らしい(生き甲斐のある)生活を継続していく」環境作りに引き続き努めていく。

- ① 法人内サービス提供体制における位置付け強化
 - ・法人内他事業所や協力医療機関との連携を密に行い、サービス提供体制を強化。入居者へのサービス提供の充実化を図る。
 - ・他関係機関への情報提供と連携を継続して行い、協力医療機関を含めた当法人のサービス提供体制の更なる周知を図る。
- ② 施設運営の安定化にむけた取り組み実施と継続化
 - ・入居率98%を目標として、新規入居者・待機者確保を図る。
 - ・前年度実績を参考に、経費削減にむけた取り組みを実施。同時に継続化していく体制整備も実施する。
- ③ 入居者・家族の満足度向上

- ・入居者生活に関係する機関との連携に努め、入居者へのサービス向上につなげていく。
- ・アクティビティサービスを充実化させ、入居者・家族の満足度向上につなげていく。

(3) セレーノ

有料老人ホームセレーノはコロナ禍における感染症対策を徹底して行い、入居者様の安全と心身の健康を保ち生活を安定させるために必要な、食事、身体介護・生活介護健康管理を提供します。入居費用（家賃・管理費・食事）が66,000円～72,000円という価格設定であることから運営経費の節減に努め、併設したデイサービスの効率的活用を図ります。経済的負担で起こりうる社会問題化する老々介護や介護難民の問題、家庭内の虐待等に対処できる施設として貴重な社会資源としての役割を担います。

全職員が人権擁護の精神に基づき倫理、法令順守に努め、入居者様が生き生きとした穏やかな生活が送れるように心のこもった接遇と介護サービスを提供します。

- ① 入居者様が安全で心豊かな生活を送れるように全職員が心を込めてサポートし地域に支持され模範となる施設を目指します。
- ② 給食事業を自営で行うため、物流、食事管理のシステムを構築し、季節感のあるなじみの料理を提供することで運営経費の節減を行います。
- ③ 施設清掃を職員で実施するため、清潔区域、汚染区域等のゾーニングや清潔消毒等の専門的知識に基づく清掃仕様書と手順書を作成し、感染症の予防を行い委託費の節減を行います。
- ④ 法人の1施設としての役割を超えて地域におけるセレーノ独自の役割を理解し関係機関と連携して介護の直面している社会問題に取り組みます。